

森の通信

The Miyazaki Prefectural Museum

宮崎県
総合博物館だより

第2号

発行日 / 昭和60年8月1日

発行 / 宮崎県総合博物館 〒880 宮崎市神宮2丁目4の4 TEL (0985) 24-2071



上記の古文書は古地図と組になっていたもので、島津左京（惟久）の時、日州佐土原藩の城地について本領と分地（久寿〈式部少輔〉分三千石）を明らかにし、すでに元禄二年に描いた絵地図を添え、鹿児島へ伺いをたてる為に大久保加賀守の家臣近藤吉左衛門を通じて依頼したものと考えられる。古文書には年号等が書かれていないが、「宮崎県史料」第7巻「佐土原藩、嶋津家日記」と照合してみると「元禄五年四月」の指出伺いではないかと思われ「前方近藤吉左衛門殿迄絵図ニ相添被遣候御書付之写元禄貳年之日記ニ有之候付爰ニ略之絵図貳枚摺并書付之摺御重宝之物入櫃之内ニ有之松白木之箱之内ニ有之」とあり、これらの写しの一つではないかと考えられる。佐土原藩では、藩成立後このように再三再四にわたって、本家鹿児島島津へ城地執成やその他のことについても逐一報告していたのであろう。（宗 像）

展 示 案 内〔話題のコーナー〕

● 民俗(宮崎の漁撈用具・5月14日～9月8日)

宮崎県には、西の山地から東の海に向かって大きな川がいくつも流れています。これらの川をはじめ、小さな川や池で人びとは魚をとりました。

魚のとり方は、五ヶ瀬川のあゆやなど大がかりなものもありますが、ふつうには、うけやうなぎぼっふ、なげ網などです。小川やみぞにはうけをつけます。うけでは流れとともにくだるふなやどじょう・なまずなど小魚がとれます。大きな川ではなげ網やしぼづけ・うなぎぼっふ、がにかごなどで、こい・ふな・はえ・うなぎ・山太郎がになどがとれます。また、秋にはため池の水をぬき、うぐいなどでこいやふなをとります。

宮崎県の東部は海に面しています。日南海岸や北浦海岸は出入りの多い海岸で、むかしから漁業のさかんなところでした。いそでは海中にもぐって、あわびやさざえなどをとります。もぐり時期は3月から8月までで、身につけるものはへこ水虫めがねだけです。すもぐりで20mぐらいの深さまでもぐりのできるのですから、とてもきつい仕事でした。また、この地方はよい港が多く、漁船による漁業がさかんです。きんちゃく網・はえなわ・トロールなどが行われています。都井地方には、とび魚漁やさわら流し漁などめずらしい漁法が残っています。日向から青島にかけて、すな浜海岸が60kmぐらい続いています。この海岸では、かつて地びき網漁がさかんでしたが、今は行われていません。

(前 田)

注1. しぼづけ(竹笹・杉の葉を束ねてヒモでくくり、数個川に流しておき、魚の集まる習性を利用してしぼの下からすくう)

注2. うぐい(竹を円錐形にあみ、池などの魚を上からかぶせるようにして漁をする)

注3. さわら流し漁(布で1m余のオドリ魚を作り、それを泳がせ、サワラがそれを襲うのを機にモリでとる法)

一口ゼミナール・一口ゼミナール 宮崎でのホタルの生活 一口ゼミナール・一口ゼミナール



世界で約2,000種(光るホタルは200種)もいるといわれるホタルも宮崎では、ゲンジボタル・ヘイケボタル等7種類が見られます。

ゲンジ・ヘイケ・ヒメボタル等ルシオラ属(ホタルの一つのグループ)のものはよく発光して人の目を引きませんが、あとのホタルは光らなかつたり、少ししか光りませんのであまり気づかれません。

最近、多くのゲンジボタルの生息地が知られてきました。なかでも小林市は市をあげて保護に取組んでいます。ほかにも、ホタルの乱舞の里が増えてきました。ほんとうに喜ばしいことです。しかし、ほんとうにす

ばらしい、ホタルの里を作るにはホタルの生活史すべてを考えた環境づくりをしなければと思います。

■宮崎県でのゲンジボタルの生活

陸上生活	水 中 生 活	土中生活
(成虫) 成虫 期	幼虫(6回脱皮)	土中 期
5 6 7	8 9 10 11 12	1 2 3 4

(遠 矢)

「ミレーとバルビゾンの画家たち」を終えて



も多く、絵の前で親子がなごやかに語りあう光景があちこちで見られました。会期中は梅雨の季節で雨の日が続いたにもかかわらず、県内外から56,895名の入観者を数え、盛況のうちに終わりました。美術展に対する関心の高い宮崎県民でありました事を喜んでいきます。

今後もこのような期待に応えられる企画を数多く催していきたいと考えます。

(永井)



「ミレーとバルビゾンの画家たち」を観て



児湯郡都農町 田尻清子さん

小雨模様の朝でしたが、絵画の好きな主人は杖がないと歩けませんので、平日でないと入場者が多くて迷惑をかけてはと、早朝汽車で参りました。会場はまだまばらでこれは有難いと入場しました。百年も前にバルビゾン村にルソー、ミレーの有名な画家達が、農民画や静物画に一人一人身近な自然と真剣にとりくんでその中の真実を求めて描かれている一点一点。百点ちかい名画に何も分からない主人と、うーん、うーんとうなづき乍ら、一步一步会場を進み、コロアの「森の中の空地」静寂の中に小さな人物像と、ともすれば私達が古木を動かしている様な一体感にひたりました。ひょっと振り返ると、いつのまにかどこかの小学生の団が口をしめて静かに続いていました。ルソーの絵は広大な色彩、光の完璧な描写、ミレーの「馬鈴薯の収穫」「薪を集める人々」などの崇高な人物像、筆でこんなにも内面的な表現が出来るのだろうか。時間のたつのも忘れていました。こんな絵に接した今、何か自分の心まで洗われたような気持で一ぱいでした。ああ、今日は本当によかった。一人でも多くの人達に呼びかけたいと思い乍ら掃途につきました。何年振りであろうこんな余韻につつまれたのは……。

~~~~~ 館外からのお願い ~~~~~

「ミレーとバルビゾンの画家たち」の絵をみて

絵をかくのがとても上手だったので、ぼくは、びっくりしました。きれいな絵がたくさんあってとても良かった。小さい絵や大きい絵をたくさんみました。博物館でむかしのかたなやよろい、かぶとを見ることができてとても良かったです。ありがとうございました。

(宮崎県立延岡ろう学校小学部 荒瀬利弘君)

*宮崎県立延岡ろう学校のみなさん。お便りありがとうございました。紙面の都合で荒瀬君のお借り致しました。この他、大門優子、若杉哲彦、持永清美、赤野友照、吉岡健一、川野源太、日野弘美、黒木慎一、北原孝、江藤美由紀のみなさんからと大分県佐伯市八幡小学校6年生のみなさんからもお便りいただきました。

「ミレーとバルビゾン画家たち」展が、好評の中に終わった。暇を見ては神宮の森に足を運んだ。絵については何の知識も持ち合わせていないのであるが、何となくすばらしいな、いいなと感嘆し、しばし佇むことだった。期間中三回行ったことになる。勿論、絵を見るのが目的で行ったのであるが、しかしこの森に行くのには、また得がたい楽しみがある。市内では珍しく、樹木のトンネルが歩けることである。県庁前の楠のトンネルもすばらしい。特に新緑の頃、雨にあらわれた後の風情は何とも言えない。しかし、神宮の森のトンネルには、厚みがある。排気ガスも車の騒音も途中で吸収され、ここまでは届かない。いちいがし、くす、いちよう、もみじ、松、杉、桧、やまたけ、まき、つげ、など小さいのから大きいものまでさまざまである。大きなコブまでつけて頑丈に根を張った大幹は、長い歴史を刻んだ年輪と共に、四方にはった大きな枝を支えている。そして背丈の低いやまたけやつげ等を守っているようである。大小の樹木の間を、セミしぐれを乗せた風が木々の香りを通り過ぎる。その涼感はクーラーとは一味違う。ここに藤椅子でもおいてミレーの絵を見たら又、良いだろうと思う。森を歩くと、フィトンチッドとかいって何かいいことがあるそうだが、市内では平和台公園の北の森もよい。巷の雑踏から一歩外に出ると宮崎は至るところ森に恵まれている。市民の森も何年か経ったらもっとすばしくなるだろう。日南海岸を離れて加江田溪谷や山小屋線を歩くのもよい。綾川溪谷の照葉樹は又格別である。枝や葉っぱの重なりで光をさえぎられコケの生えた地面はハダシが良い。これからはいよいよ森の季節である。森の中へ、そして森の中の博物館へ、みなさんも気軽にいかがでしょう。

日州路 —長屋門—



清武町湯地家門

初夏のとおり雨に濡れた長屋門に、木もれ陽の光が戯れるようにおどっていた。楠木馬場と呼ばれる幅一間程の小路は、この武家屋敷の並ぶ界隈の中でも一等散歩に似合っている。清武町大字加納丙、湯地貞雄さん宅の長屋門は、明治10年頃まではカヤぶきの屋根であったが、西南の役の際、屋根だけが焼けたためにその後、瓦にふきかえたと聞いた。湯地家は伊東藩清武の右松、平嶋家などと並ぶ名家で、その禄は百石を誇った。この湯地家の底本による飢肥藩分限帳（野田敏夫校訂）をみても大身にあたる。当時もこのような長屋門を持つ武家屋敷は、清武でも少なかったであろうが、今もその威風を残して歴史的にも貴重でめずらしい。門の両側は番小屋になっていて、中央は馬小屋と物置である。屋根裏には蚕を飼っていたらしい。清武城跡のあるこの麓づたいに、安井息軒旧宅などがあり江戸時代のたたずまいがいい。一服していると雨の楠木小路を三分ひらきの傘を持った男がかけぬけていった。（宗 像）

10月までの催しもの

7月	8月	9月	10月
2日■	10日■	1日■	29日■
(常設) 考古新収蔵資料紹介	(常設) おもしろい形をしたコガネムシ	1日■	土器田横穴資料展
(常設) 日向の古地図	(常設) 宮崎の漁撈用具	8日■	10日■ 日向の木地
(常設) 宮崎の漁撈用具	10日■	牧水展	1日■
		3日■	館蔵水彩秀作展
		3日■	館蔵日向の刀展
			23日■
(埋文センター) 堂地西遷跡	(西都原資料館) 西都原周辺の生活		
(森の名画座) …… 8/18夏休み特集	9/4 欲望という名の電車		
(森のコンサート) …… 8/17声学の夕べ(東芸大)			
(自然の学習) …… 8/4自然観察会	8/24森の学習会	9/25-10/6	小中学生の自然採集展
(美術展) …… 7/30-8/4	宮崎県美術協会展	9/7-23日	中友好美術展